

## 2017年度 実験生物慰霊式／実験生物慰霊祭の開催について

2017年度に早稲田大学では二つのキャンパスで実験生物慰霊式、実験生物慰霊祭が執り行われました。

### ① 2017年度 実験生物慰霊式（先端生命医科学センター）

11月8日（水）先端生命医科学センター（TWIns）2F共用会議室Bにおいて、平成29年度実験生物慰霊式が執り行われ、学生および教職員、生物取扱関係者などが出席し、式典後の献花も含めると、156名の参列がありました。

はじめに柴田重信先生（先端生命医科学センター長）より挨拶があり、実験生物への感謝と哀悼の念について述べられました。また、実験により得られた成果、知見を広く社会に発信することで世間の理解を得ることの重要性について改めて説明がありました。終わりに、本年受検を予定している動物実験相互検証プログラムについて、受検の趣旨への理解と検証への協力についてもお願いがありました。

挨拶の後、生命科学分野の教育・研究のため貢献した実験生物への感謝と犠牲となった生命への哀悼の念を表し、出席者一同が黙祷を捧げました。

続いて、学生代表より、「3Rの理念」に基づく実験動物への配慮と、実験を通して得られた成果を社会や研究教育の発展に還元することを誓う慰霊の辞が述べられました。

締め括りに、参加者全員による献花が行われ、厳粛のうちに終了しました。



### ② 2017年度 実験生物慰霊祭（所沢キャンパス）

12月16日（土）、所沢キャンパス「実験生物慰霊碑」前において、平成29年度実験生物慰霊祭が開催されました。晴天の下、人間科学学術院、スポーツ科学学術院の生物実験に従事する教職員、学生ら23人が参列しました。

式典では、中氷川神社の宮司により、降神の儀、慰霊碑への遷霊、祭文奉上、玉串奉てん、昇神の儀が執り行われました。

続いて、正木宏明先生（スポーツ科学研究センター所長）より挨拶がありました。

人間科学・スポーツ科学の発展に動物実験で得られた知見が大きく貢献してきたことについて、実験動物に対する感謝と畏敬の弁が述べられました。また、近年、日本の大学における実験計画申請書への記載事項が欧米に比べて少なく、実験動物への配慮が足りないとの報道があることについて、法令や本学倫理規程等の遵守と、常に自身の襟を正す誠実な心構えが大切であるとの説明がありました。

締めくくりに、本年度の実験生物の使用状況が読み上げられ、30年目を迎えた本祭典について宮司より挨拶があり、厳粛のうちに慰霊祭を終えました。

